

児童発達支援センター 桂堂学園 令和元年度 療育の内容に関する全体的な計画

事業の目的		障害児に日常生活における基本的動作の指導、自立生活に必要な知識技能の付与または集団生活への適応のための指導を行う		子どもの療育	2～3歳児(新入園児)	衛生的な安全な環境で心身ともに、快適な生活を送る				
療育理念 (事業運営方針)		仏教療育綱領の精神に基づき、生命を尊重し、保護者と緊密な連絡のもとに園児を理解し、健康で明るく、仲良く、たくましく育てる			4歳児	支援員や友だちと遊ぶ中で、自分のしたい事、言いたい事を言葉や行動で表現する				
療育方針		1、慈心不殺(生命尊重の支援) 2、仏道成就(正しきを見てたえず進む支援) 3、正業精進(よき社会人を育成する支援)			5歳児	生活や遊びの中で基本的な生活習慣を身に付けたり、さまざまな活動を通して、達成感や充実感をみながら味わう				
療育目標		1、安心できる大人がいる生活 2、見通しが持てる生活 3、「友だちと一緒に」が楽しいと感じられる生活 4、「自分でできた」という達成感・「～してみよう」と意欲の持てる生活		療育時間	●基本…9:00～16:00 *おはようランド…9:00～ *ほかほか広場…16:00					
主な行事 (日常の節目としての行事設定)		●始業式 ●花まつり ●こどもの日のお祝い ●個人面談週間 ●誕生会(毎月) ●家庭訪問 ●親子バス遠足 ●内科・歯科検診 ●療育相談 ●療育参加 ●七夕集会 ●みたままつり ●園外療育 ●運動会 ●七五三詣り ●成道会 ●ケーキ作り ●もちつき ●豆まき ●涅槃会 ●ひなまつり ●お別れ会 ●卒園式								
療育の基本及び目標		発達過程と障がいの相関性		保育5領域との整合性		家庭との連携	各機関との連携	地域支援(相談支援事業)		
療育の基本については養護と5領域の事項を重視する。目標は生活を通して、生きる力を育成するように療育目標の達成に努める。		基本は、3歳児(2歳児含む)、4歳児、5歳児の年齢別であるが、それぞれの発達や障がいの重症度別に配慮して活動するホームを編成し、その変動もある保育要領に基づき「福祉型児童発達支援センターの年間指導計画」を定める。		保育要領のねらいと内容、配慮事項に基づき、各領域が示す目的に沿って療育がなされるようにする。障がい児の個別支援に配慮しながら、養護と保育の5領域に合わせて支援していく。		支援員は、個々の保護者に対して、さまざまな相談や情報提供を行うものとする。個々の保護者への対応と合わせて、次のような取り組みを行う。①家庭訪問 ②家庭連絡帳 ③園だより ④クラスだより ⑤個人面談 ⑥療育相談(講演会)		併行通園の幼・保育園、及び小学校への円滑な移行に向けて情報交換会。第二養護学校の見学会や行事に参加。同法人の認定こども園と園児交流。他小学校の運動会・授業参観・卒業式出席。		
特に配慮すべき事項										
健康支援		環境、衛生・安全管理			食育の推進		保護者支援			
●定期的な健康管理 ①診察・検診…内科、歯科検診を実施し、個々の健康状態を把握する。保護者に子どもの健康状態を伝え、適切な指導をする。 ②個別支援計画…年3回個別支援計画作成時に子どもの情報を共有する。健康面の課題を明確化し、保護者に指導・実践する。 ●日常的な健康管理 ①健康状態…保護者と連絡・確認しながら、児の健康状態を確認する。体調不良時には適切な処置をし、受診の必要性を判断し保護者に連絡する。		●わずかな外的変化で体調を崩す適応力の幅の狭さや生理的発達基盤の弱さから感染に対して重篤化しやすい子どもが多い。日頃より衛生管理に注意を払い、感染症の拡大を予防する。 (1)環境調整…①快適な環境…室温、湿度の管理。空気清浄機や加湿器の使用。 ②感染症対策…①感染症対策マニュアル ②衛生管理 (3)安全管理…事故発生時の迅速な対応に向けての日常的な準備が必要。 ①事故の予防・安全点検・事故防止対策 ②事故後の対応・医療事故・その他の事故			●給食の目的 ①食べる楽しさを軸に「食べる力」の土台を育てる。 ②障害に応じて給食の提供を行う。 ③健やかな心身の成長・発達とより豊かな食生活につなげる。 ●給食の提供 ①栄養管理について…「食事摂取基準」を活用し栄養給与目標量を算出し献立作成 ②安全安心な給食作り…「給食衛生管理マニュアル」に基づき調理場内衛生管理を徹底。 ③アレルギー除去食…医師の意見書に基づき、できる限り普通食と変わらないように工夫し、除去食 献立を作成する。 ④保護者・職員間で共通認識のもと、誤食もなく安全な食事提供を行う。		●個々の保護者に対して、さまざまな相談や情報提供を行う。 ①家庭訪問…入園後の家庭訪問で、家庭環境や保護者の思いを知る機会とする ②おたよりノート…毎日の子どもの様子を園と家庭それぞれ記録し、伝え合う ③園だより…月1回発行。行事予定やさまざまな取り組みを紹介する ④クラスだより…クラスの予定やねらい、取り組みの様子などを伝える ⑤個人面談…個別支援計画に基づき、子どもの姿や課題、目標について確認する ⑥療育相談…子どもの発達・障がいの健康、食事などについて研修会を行う ⑦発達相談…ことばの発達支援員による保護者との個別面談			
養護 (保育士・児童指導員が行う事項)	年齢	2・3歳児(新入園児)		4歳児		5歳児				
	生命の保持	●生理的欲求の充実を図る ●生活のリズムの形成を促す ●適度な運動と休息の充実		●健康な生活習慣の形成		●運動と休息のバランスと調和を図る ●健康・安全への意識の向上		①生活習慣…子どもの身辺自立や生活リズム ②情緒…子どもの精神面で伝えたいこと ③健康…子どもの怪我や疾患などの健康状態で気になることがある場合 ④特別な配慮…障がいのある子、気になる面があり配慮が必要と思われる事 ⑤家族への配慮…家族での過ごし方や関わり方で配慮が必要と思われる事		
	情緒の安定	●応答的な触れ合い ●温かなやりとりによる心の安定		●自我の育ちへの受容と共感 ●主体性の育成		●自己肯定感の確立と他者の受容 ●心身の調和と安定により自信を持つ				
支援にあたっては、個々の発達の状態及び特性等に十分配慮するものとする										
自立活動 (子どもが環境にかかわって経験する事項)	領域	2～3歳児の療育内容			5歳児の内容			ポイント		
	<健康> 健康の保持・生活心理的な安定 基本的な生活習慣	●寝る、食べる、排泄の生理的な基盤を整える ●身体機能に応じて援助する ●身の確立により行動範囲を広げる			●年齢・身体状況に応じたリズムが作れるようになる ●気持ちよく排泄することから最終的に自立に向かう ●運動・指先の機能の発達を促す			●基本的な生活習慣の確立に向けて支援する ●健康へ関心を持つ ●自分でできることを自分でやる力をつけていく		①心の健康…子どもの心の安定 ②体の健康…運動や体をを使った遊びなど、身体の健康 ③生活習慣と生活態度…望ましい生活習慣や態度がどのくらい身についているか
	<人間関係> 人間関係の形成 対人・社会性	●親子関係の安定を図る ●特定の大人との愛着心の形成 ●周囲の人への興味・関心の広がり ●子どもの思いが受け止められる経験を保障する			●担任との信頼関係を土台に、大人への関係を広げる ●物事の良し悪しに気付いていく ●子どもの出すサインに気付く、伝わった経験を重ねる ●言葉だけでなく、視覚的にわかりやすく伝える工夫をする			●子どもの思いが受け止められる経験を積み重ねる ●道徳性の芽生えと並行遊びの充実 ●仲間とのつながり ●友達とのかかわりの増大 ●いろいろなコミュニケーション手段を使ってやり取りを楽しむ		①自分の力で行動する…子どもが自分で考え、意欲を持って行動する ②身近な人との信頼感…職員や友達と信頼関係をどのように築いているか ③友達との関わり…友達とのかかわりが深まっているか、かかわりかたなど ④望ましい社会生活の態度…人とかわかる時の関係の持ち方、かかわりかた
	<環境> 環境の把握 認知・行動	●安心できる大人とかかわって過ごす ●好きな玩具や遊具に興味を持ってかわる			●自然と触れ合い、戸外遊びを楽しむ ●身近な環境へ積極的にいかかわって生活する			●生活や遊びの中で、簡単な文字や数字に関心を持つ ●社会、自然現象へ関心を持ち、好奇心や探求心深める ●メモリアル旅行を通して、公共の乗り物(電車)の乗車や海浜療育を体験する		①職員や友だちへの関心…人の環境の下で何に興味を持ちどのように関わっているか ②好きなものへの関心…何を好きで、それとどの様にかかわっているか ③自然物への関心…季節や天候など、自然物についての興味・関心・成長など ④動植物への関心…子どもがどんな生き物が好きでどのようにかかわっているか ⑤身近な物への関心…好きな物に限らず、身近な物にどの様に関わっているか ⑥文字や数への関心…ひらがな・カタカナ・数字などへの興味・関心 ⑦園内外の行事などへの参加…当番活動や園行事、園外活動を通しての子どもの成長
	<言葉> コミュニケーション	●語りかけられると、声を出したり応えようとする ●話しかけややり取りの中で、気持ちを表そうとする			●生活や遊びの中で簡単な言葉でのやり取りを楽しむ ●身振りや絵カード等、視覚的に分かり易く伝える工夫をし、やり取りを楽しむ			●相手の話を聞いたり身近な文字に触れたりして興味を持つ ●友だちや大人との会話を楽しむ		①自分の気持ちを話す…思ったことが伝えられているか ②言葉のやり取りを楽しむ…人と会話ができていくか ③体験や想像を話す…体験や想像したことをどの様に話しているか、楽しんでいるか ④人の話を理解し行動する…人にどんな内容の話をどのように理解し行動しているか ⑤文字等に興味を持つ…言葉だけでなく絵本や文字数字等に興味を持ち関わっているか
<表現> あそび・手指活動 全身運動・感覚	●歩く、走ること充実させる ●感覚遊びを楽しむ(粘土・粉・砂・泥・寒天) ●大人と一緒にリズム遊びや触れ合い遊びを楽しむ			●三輪車で遊ぶ ●体操・音楽に合わせて体を動かす ●模倣遊びの充実			●遊具を使って総合的な運動をする ●ルールのあるボール遊び ●ケンケンパ、片足立ち・リレーごっこ ●リズムで色々な動きや姿勢		①様々なものに興味を感じる…子どもが興味を持っていること、その気持ちをどう表したか ②自分でイメージして表現する…子どもが自ら想像した内容、何かで表現したこと ③友だちと表現することを楽しむ…友だちと一緒に何かをイメージして表現したこと	
療育の基本と目標(再掲)		基本(1)活動体験を十分に積み重ねる (2)養護による自己発揮を考慮し、生活を展開する (3)遊びを通して療育を中心として5領域のねらいを達成 (4)園児の個別課題に即した指導→支援員の計画的な環境構成								
特色ある療育と保育		●園外療育 ●ことばの発達支援員による「ことばの教室」 ●言語聴覚士による「言語指導」 ●美術講師による造形教室 ●ダンス講師による「コンテンポラリーダンス」								
研修計画		●発達障がい児に関する園外・園内研修 ●危機管理研修・事故防止委員会 ●園内新任職員研修 ●園外研修への計画的な参加(県外研修、仏教保育研修、救命救急等含む)								
自己評価		●法人による適切な施設運営管理の評価 ●桂堂学園の評価 ●職員の評価(自己評価と園児の評価の確立) ●自己チェックリストの実施と危機管理マニュアルの作成 ●第三者評価の理解								